

Q. 放課後対策事業の充実を



いわした たつや
岩下 竜也 議員

IWASHITA Tatsuya

A. 制度のあり方を検討していく

放課後対策事業の充実、子どもたちの未来を支える重要な政策の一つとして、積極的に推進していくべきだと考える。さらに保護者や地域住民との連携を強化し、子どもたちが支援を受けやすい環境を整えることも大切である。

具体的には、放課後に子どもたちが安心して過ごせる施設の整備やプログラムの充実、質の高いスタッフの配置などが「重要」である。現在、放課後児童クラブと放課後子ども教室が実施されている。空き教室や学校施設などを活用した放課後児童クラブの実施や志水小学校と同じような一体型の運営を他の小学校でも検討していくべきではないかと考える。

Q 放課後対策事業のさらなる充実を図るため、放課後児童クラブと放課後子ども教室を一体的に運営することは検討していくのか。

A 生活福祉部長
志水小学校区だけでなく、

豊山小学校区、新栄小学校区においても、放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体化を進めていく。保護者から制度の見直しを望む意見をいただいているので「料金設定」や「利用時間」など制度のあり方についても併せて検討していく。

Q 志水小学校以外の放課後児童クラブは、学校から離れた場所（新栄・北館さざんか、豊山・しいの木）で実施している。今後、学校敷地内や学校により近い場所での実施は考えているのか。

A 生活福祉部長
児童の安全面を考えると、放課後児童クラブの場所については、議員の言われるとおり、学校敷地内や学校により近い場所での実施が望ましいと考える。学校の空き教室の利用や、学校敷地内のクラブ棟の新設、学校から近い場所での開催など、柔軟に検討していく。

Q. 新たな見守りサービスを

A. 先進自治体を調査・研究

高齢者の見守りは、地域社会の大切な課題の一つであり、各自治体が積極的に取り組むべき「重要」な政策である。

さらに、高齢者の方々が安心して暮らせる社会を築いていくことが必要である。

例えば、定期的な訪問や電話連絡、身体機能のチェック、緊急時の対応など、さまざまな「見守りサービス」を提供することが重要である。今後、町や地域の方の協力だけでなく、ICTの活用や日常生活の変化から異常を察知するなど、あらゆる形での対策が必要になるのではないかと考える。

Q 高齢者の見守りについては、地域包括支援センターの職員、民生委員や地域の協力者の方による見守りだけでなく、新たな見守り方法を検討すべきでは。

A 生活福祉部長
現在実施している事業を継続しながら、近年、他の自治体が導入している、日常生活の変化から異常を検知するICTを活用した見守りについても、先進自治体の状況を調査・研究していく。

Q 人に寄り添ったソフト面の施策と施設整備などのハード面の施策、これらの両方の取り組みをバランスよく進めていくことが、町政運営をしていくうえで、更に、地域全体の発展にとっても、重要である。町長の考えは。

A 町長
町民のニーズ、町の課題に必要に応じて連携していく。